

編集委員 ここも日本 驚きの出会い

インタビュー

珍スポットトラベラー 金原 みわさん(32)に聞く

ちよっと変わった場所、訪ねる理由は？

ペンキが色あせた遊園地、UFOブームの頃で時が止まったままの食堂、カエルとネコの像が無数に並ぶ寺……。有名なキャラクターも多くの観光客もいないけれど、何とも言えない味わいのある場所がある。そんなところを訪ねては雑誌やネットで紹介するのが「珍スポットトラベラー」を名乗る金原みわさんだ。時代や流行とは縁遠い場所にとんだ魅力を感じるのか、おススメスポットと合わせて聞いてみた。(田中雄浩)

「そもそも珍スポットとは、どんなところを指すのですか。」
「定義は難しいんですけど、先駆者の活動で広がってきたところ。例えば、(性的な展示物の多い)秘宝館とか、無名の芸術家が独りで何かを作り続けている場所、といった一般的な価値観とは少しずれた、ちょっと違和感を抱くような場所ですね。私は自分にとって珍しい、なじみがないもの、例えば昭和レトロを感じられるようなところを言っています。」

「これまで訪れた中で、特に印象的だったところはありますか。」
「一番良かったのは高知県安田町にある『大心劇場』ですね。山の中にある映画館で、大阪から高速バスと列車と徒歩で10時間近くかかるんですけど、映画が始まる前に通覧が披露するキタールの演奏語りが、心に染み入ります。上映に使うのはフィルム映写機一本だけで、上映中に手でフィルムをつなぎ替える『流し込み』という技法が、今も日本でこんなところまで残っていて嬉しかったです。」

「三重県松阪市の山奥に『里の泉』という、野球場くらいの広さの陶芸空間があります。東健次

さんという作家が1978年から制作した天徳の像や木のオブジェなど、数え切れないほどの作品が並んでいます。東さんは2013年に亡くなったので未完成のままなんですけど、広く世間知られなくても独りで作り続けた芸術家の思いが詰まっています。」

「兵庫県内のおススメは？」
「朝来市の野銀山はやっぱり面白いですね。銀山ポイズン坑道内のマネキン人形をつくるアイドルグループのお披露目イベントにも行きましたが、その前からマネキンのエンールさが好きです。」



西宮市和上町

広がる世界観、情報発信も

作られ、書かれたのか」と衝撃を受けました。それから休日に「当時『珍スポット』なんて呼ばれていた場所を調べては訪ね、そのたびに自分の世界が広がるような気がしています。」

「会社に勤めながら珍スポットを訪ねる旅をして、見たものをブログで発信したり写真展を開いたりしました。そのうちに雑誌への寄稿やイベントの開催をするようになり、好きを仕事にしよう」と会社を辞めました。」

「著書では、『ゴキブリ、ワールバー』が通常の食材ではないものを食える『奇食』の体験も書かれています。」
「新しい何かを食へるときの価値観を食へるような感覚がとても好きで、大人になると価値観が変わるとなるとあまりないですけど、食へるだけで価値観が変わりましたね。ゴキブリを食へたという話って生きていけるって思えて、それから世の中のいろんなものを食入れられるようになった。」

「珍スポット巡りには、とんだ意義があるのでしよう。」
「広く知られていないから、大きな媒体からはほれ落ちてしまっただけと、とても確かに日本の断片。そのかけらを拾い集めてみると、壮大なパズルワールド(並行世界)も一つの日本が見えてくるように思います。」

「珍スポット巡りには、とんだ意義があるのでしよう。」